



聖ヨハネ会だより

第43号 平成30年12月

平成最後のヨハネ会だより

法人事務局長 竹川 和宏

世の中では「平成最後の〇〇〇」という表現をよく聞きますが、本号も文字通り「平成最後のヨハネ会だより」になります。まだ新しい元号が決まっておりませんが、法人の中ではこの機会に年度の表示などを和暦から西暦に変更することもどうかと検討しております。なんとなく馴染みがないようにも感じますが。

平成の30年を振り返るにはこの紙面ではあまりにも短すぎると思いますが、福祉という観点から考えた場合、「措置から契約へ」「運営から経営へ」「施設単位から法人単位へ」「見える化」「権利擁護」「公益的活動の推進」「地域包括ケア」「地域共生社会」といったキーワードがこの時代を表しているのではないかと感じます。そして時代の流れが急激に速くなり、多様化・複雑化していく地域生活課題に対応していくことが社会福祉法人に求められているということを昨今強く言われています。

これまで当法人は医療を必要とする方、ご高齢の方、障害のある方に対してご支援（＝社会福祉事業）をしてきましたが、そのことに加えて地域の様々な福祉需要に対応していくことが求められていると思います。前者はケアワーク、後者はソーシャルワークという表現ができるのかなと思っています。具体的に言いますと、地域の福祉ニーズや生活課題を抱える低所得者、発達障害、ネットカフェ難民、刑務所出所者、ひきこもり、不登校、独居老人見守り、僻地へのサービス、買い物難民などに対してその課題を解決していくための活動ということになります。

こうした言葉で表現しますと、それぞれに高いハードルがあり、そう簡単には解決できないのではと思いがちですが、この原点は「困った人を見つけて手を差し伸べる」ということです。それはまさに当法人の理念（病める人、苦しむ人、弱い立場の人に奉仕する）です。職員が日常的に地域の方と話し、そのことが総合的な相談となり、顔と顔が見える関係を築いていくことがやがて信頼へとつながり、利用することは勿論ここで働きたいと思ったださる方が増え、つまり組織として一番大事な「人」が集まってくる土壤があることで、経営の基盤を強化でき永続的な活動が続けられるという良い循環になることが望ましいことではないかと思っています。

年が明けますと平成という時代が終わり、また新たな時代へと変わっていきますが、このような気持ちを忘れることなく、職員一丸となって前へ進んでいきたいと思っております。

各事業所の活動

ピアノコンサート

小金井聖ヨハネ支援センター 生活介護 佐藤 賢一

11月23日（金）にボランティアの藤澤さんが来所され、生活介護にてピアノコンサートを開催しました。

ショパンなどのクラシック曲を5曲聴き、その後に普段、月・水・金と音楽の時間で歌っている歌を7曲、みんなで唄いました。クラシック曲は、静かに聴いている人・あくびをしている人・周りの様子を見ている人と個々にさまざまな感じ方をしていましたが、私的には心地よいリズムと心を揺さぶられる強弱と、とても上手で聴き入っていました。その後、伴奏に合わせて皆で唄いましたが、心なしか普段より「みんな声が出ているのでは？」と感じました。実際、普段に比べみんな大きな口を開け唄っていました。アンコールが2回とみんなまだまだ、唄いたい様子でしたが、残念な事に時間の関係で終了…。その後、おやつを食べコンサートは終了しました。

藤澤さんからは「来年も来れたら来たいね」と嬉しい言葉をいただきました。さあ！来週から来年に向けて唄の練習を頑張りましょう。



痛かったけど何とか終わったインフルエンザの注射

清瀬聖ヨハネケアビレッジ 管理者 川副 敬二

今年も冬がやってきて風邪がはやる季節になってきました。毎年恒例のインフルエンザの注射を、ここ「清瀬ケアビレッジ」の皆さんも済ませました。

11月の休日の土曜日のお昼過ぎ。いつもなら数人の利用者が昼食後のゆったりした時間を寛ぐはずの下清戸ケアビレッジ内に中清戸ケアビレッジの利用者や支援員の全員が集まってきて30人近い人で賑わいはじめました。

わいわいと仲睦まじく楽しい会話が弾んでいました。その時、病院の看護師の方が数人明るい声であいさつをされて入ってきましたので何やら始まるんだらうなという雰囲気になり部屋全体が変わってきました。看護師の登場と注射針のケースを見て皆、何かを感じている様子でした。誰かがふざけて「いたいぞ～」と言っていました。看護師の問いかけに表情がこわばり、ひくひくしながら注射をうけ





下清戸ケアビレッジでの避難訓練

る人。いつもと変わらず、淡々としていて表情を変えずに済ます人。支援員の声かけと横についてもらいながら気持ちを落ち着かせて何とか終わる人。それぞれのやり方で注射を済ませました。全員が終了する間に最後まで様子を見ていた方の番となり、看護師の問いかけに「うえ～ん、いたいよ～、イタイ・イタイ」と注射をする前から鳴き声を上げていました。その声は部屋中に響き渡り、本人にはわるいけれど、みんなから大受けでした。何を聞かれても「うえ～ん、イタイ・イタイ、いたいよ～」と顔を細めて

いました。看護師の優しい上手な声かけと素早い注射が一瞬に終わったので注射をしているときは声は聞こえませんでしたが終わると「いた～い、いた～い。イタイ・イタイ、うえ～ん」とまた泣き声になってしまいました。その声にみんなが「終わったよ～、もう大丈夫だよ」と声をかけていました。その方はその声が聞こえると渋い顔がだんだんほぐれていつもの柔らかい表情に戻っていました。

清瀬ケアビレッジの毎年の冬の風物詩となるようなインフルエンザ注射のひと時でした。

支援1課の1泊旅行

富士聖ヨハネ学園 支援1課 山口 翼

9月2日～3日で、熱海一泊旅行を行いました。旅行日和…とはいかず、あいにくの天候の中のスタートとなりましたが、出発から利用者さんの気分は上々。まずは沼津港に寄り、新鮮なお寿司に舌鼓。皆さんの美味しそうに食べる顔が印象的でした。また宿泊先のホテルの大浴場、それから豪勢な夕食バイキングに満足したようでした。

2日目には少し雨が上がったので熱海城へ。曇り空でしたが、展望台からの眺めは最高でした。また思い出の記念写真も撮ることが出来ました。

2日間通して、とても楽しい旅行が出来ました。また来年も楽しい旅行が計画できるように、体に気をつけながら元気に過ごしていきたいと思います。



餅つき大会

富士北麓聖ヨハネ支援センター 渡辺 佳代

11月23日恒例の餅つき大会を、保護者の方のご参加をいただく中開催しました。天候に恵まれ、まさに餅つき日和！となりました。

「はい。餅つきの準備が出来ましたよー」と合図がかかると、一斉に利用者が集まり出し順番に歓声をあげながら楽しそうに餅をつき始めます。特に利用者Hさんは、とても腰の入れ方が良く、「餅のつき方が立派だったわ とても感動的でした」と保護者の方からお褒めの言葉をいただきました。去年はお替りを何度もする方がいて、豚汁が足りなくなったので、今年度は、カードを使用して皆に同じ量が配れるよう工夫しました。

餅がつきあがり、そのつきたての餅を、磯辺、あんこ、きな粉、ピザ、おろしシーチキン、納豆、胡麻の7種類の味付けで直ぐに食べてもらいます。これがまたサイコ～。食べた途端に笑みがこぼれる。あっ豚汁の事も書かなきゃ(笑) 豚汁も大好評でした。寒さの中、味がしみる～と言った感じですかねえ～。

餅つきの他にも秋の日帰り旅行のライドショーやダンス、ゲーム 手遊びを楽しむ事が出来、利用者さん、保護者の皆さん、職員みんなの笑顔が広がる餅つき大会でした。



健康寿命を延ばし、自立した生活を支援します！！

桜町病院 リハビリテーション科長 鈴木 亜弓

桜町病院リハビリテーション科は入院、外来患者を対象にリハビリテーション（以下リハビリ）を提供しています。病院でのリハビリの提供には期限があるため、リハビリが終了した後も身体を動かし、自己管理ができるよう指導しています。

外来リハビリの終了時期が近付くと、筋力や体力を今と同じように維持していけるかどうか不安に思う患者さんも見受けられます。リハビリ期限終了後でも、自主トレメニューや身体の不調に対しての相談をするために立ち寄って下さる患者さんもいらっしゃいます。そのような方々には、自主トレメニューの見直しや小金井市内で使用できる健康増進や介護予防サービスについての情報提供などを行い、できる限りのアドバイスをしています。



当科では日頃から困った患者さんが気兼ねなく相談できるような、開かれたリハビリ室でありたいと考えています。

訪問看護師として2年目をむかえて

小金井訪問看護ステーション 八木里江子

訪問看護師として勤務し約1年目です。

訪問時のご利用者の体調はどうか、信頼関係は築けるのかなど緊張する場面は沢山あります。

ご利用者の中には認知症があり、訪問してくる看護師の名前や職業も忘れてしまう方がいます。看護師が作り出す雰囲気も大切に、関わり方によっては混乱し必要なケアを提供できなくなります。看護師の顔を見ただけで訪問を受け入れてくださると、とてもうれしい気持ちになります。

訪問した時は、玄関でチャイムを押す所からご利用者の雰囲気を感じることが出来ます。ご自宅の様子から、どのようにしたらご本人がより良い生活を送る事が出来るのか、ご家族も含め一緒に考えられる事が楽しく、とてもやりがいのある仕事だと感じています。

訪問が終了し玄関を出る時は、ご利用者が元気で過ごせる事を願い、訪問させて頂ける事に感謝の気持ちを込めながらご自宅を後にします。2年目以降も今の気持ちを忘れず訪問看護を続けてゆきたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。



『納涼祭』と『敬老会』の様子

桜町聖ヨハネホーム副園長 芦澤みゆき

今回桜町聖ヨハネホームでは、年間行事3大イベントの中の二つの行事。『納涼祭』と『敬老会』の様子を皆様に見ていただきたいと思います。



7月の25日に実施した納涼祭では、いつも訪問して交流のあるしんあい保育園の園児達が、毎年お神輿を担いでホーム内を大きな「わっしょい！わっしょい！」のかわいらしい声と

共に練り歩いてくれます。ご利用者様は勿論のこと職員一同も毎年子どもたちが来てくれることを楽しみにしています。職員の有志による和太鼓の演奏も楽しみの一つです。

また、このお祭りは、子どもたちが元気に担いでくれた子供みこしの補修やかき氷のお手伝い等様々な場面で家族会の皆様



や家族会のOG、OBの方々のご協力により成り立っております。
大変ありがたく感謝申し上げます。

9月17日の敬老の日に実施した敬老会では、栄養部がこの日のために腕によりをかけた松花堂弁当と普段歌うことのあまり



無いちょっぴりはにかみながらの、職員からの歌のプレゼント。この日に来てく

ださった大勢のご家族様と共に皆で歌を歌い、和やかな穏やかなひと時を過ごす事が出来ました。これからも家族会の皆様やご家族様のお力を借りながら、ご利用様が楽しむことが出来るイベントに取り組んでまいります。



介護予防クラス外出訓練イベント

桜町高齢者在宅サービスセンター 通所介護生活相談員 秋山 仁

10月26日、金曜日の午後に外出訓練イベントを実施しました。

ご利用様は要支援の方ですが、普段はあまり外出しないという方も多く、今回も現地までは車を利用しての外出となりました。

今回訪れた場所は、近所の大学校内にある科学博物館です。

この博物館は小金井市周辺でも盛んに行われていた、養蚕の資料を収集・展示しています。

長年、小金井市に住みながらもこの博物館を知らない方がほとんどで、貴重な資料を見学しながら、「昔、私の家にも同じ機織り機があった。」等、昔を懐かしむ声が多く聞こえてきました。

校内散策と博物館見学後は、同じ校内のカフェテリアで美味しい飲み物を飲みながら、ご利用様と職員で楽しいひと時を過ごしました。

今後にご利用様に様々なクオリティーオブライフの場を提供するとともに、職員も一緒に成長して行ければと考えています。





『みんなの安心・ささえ愛ネット』（通称「みんな愛ネット」）

本町高齢者在宅サービスセンター長 山極 愛郎

本町センターは、けやき通り商店会とともに立ち上げた「みんな愛ネット」をご紹介します。立ち上げのきっかけは同商店会が行った「けやき通りの元気なコミュニティづくりの事業のための調査」の結果、「商店会に期待する役割」に「地域を見守る商店会」を期待する声が大きかったことにあります。

「商業×暮らし（福祉）」のコラボで何が生まれるだろう?! そんな期待を胸に立ち上げました。このネットの特色は、「みんなの安心」（＝暮らしの安心）を「愛」の精神にもとづき、お互いにささえあうネットワークを構築することによって実現しようとしている点にあります。また、商業者が中心となり牽引しようとしている点も特徴的で、地域包括ケアシステムの実現においてはモデル的存在になりうるのではないかと考えています。

「みんな愛ネット」の取組みについて詳しく知りたい方は下記のQRコードからご覧ください。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



【東京ホームタウンプロジェクト】



聖ヨハネ会親睦会の活動について

法人本部 木村 香織

法人本部では、各施設の交流の場として、平成26年より聖ヨハネ会親睦会を立ち上げ活動しております。

今年の活動は、5月に西沢溪谷へハイキング、8月には念願の富士登山に出かけました。

昨年から計画するも、天候に恵まれずに今年やっと実行することができました。

東京から16名、山梨から4名の計20名で、富士聖ヨハネ学園の遠藤園長を隊長に、山頂目指して

挑戦しました。

途中厳しい状況になることもありましたが、みんなで励まし協力しあった結果、3,250mにある山小屋元祖室さんまで全員が到着することができました。

翌朝山頂へアタック予定でしたが、大雨と雷の為そのまま下山となりとても残念でした。来年再リベンジをしたいと思います。

11月には5回目を迎えるボーリング大会がありました。

本年は各施設対抗ボーリング大会となり、普段から顔を知っている職員が1つのチームとなったこともあり、参加者31名が熾烈な戦いに大いに盛り上がりを見せました。

試合後の交流会では団体・個人の成績発表があり、何かしらの景品を皆さんが持ち帰り、楽しいひと時を過ごすことができました。

今年は法人本部が優勝!!来年も頑張りたいと思います。



編集後記

平成という時代、それはその文字に込めた思いがあったと思いますが、果たしてどうだったでしょうか。時が進むに連れて社会の在り様が人間の想像を超えて変わってきているように感じます。そんな時だからこそ少し過去を振り返ってみるのもいいのかもしれません。家族、友人、日常お付き合いしている方々、久しく会っていない同窓生、などとちょっと立ち止まってみても無駄ではないかもしれません。(竹)

社会福祉法人 聖ヨハネ会にご援助を!!

会の福祉事業発展のために

私どもの福祉事業は大別すると下記の種類があります

桜町病院（一般病棟・療養病棟・ホスピス病棟）

富士聖ヨハネ学園・富士北麓聖ヨハネ支援センター（障害者支援施設・障害福祉サービス事業）

桜町聖ヨハネホーム（特別養護老人ホーム・老人短期入所事業）

桜町・本町高齢者在宅サービスセンター（老人デイサービスセンター・老人居宅介護等事業）

小金井・清瀬聖ヨハネ支援センター（居宅支援・就労支援事業）

★銀行振込★

口座名 社会福祉法人 聖ヨハネ会（普通預金）三菱東京UFJ銀行小金井支店 No.4127570

★郵便局振込★ 00190 - 7 - 711126 社会福祉法人 聖ヨハネ会